

## 2004（平成16）年度 前期 京都大学 入試問題 文理共通 第2問 解答例

\*京大現代文では、解答欄の行数が削減される傾向が続いており、5行のものも珍しくなっているため、ここでは現実的な行数に減らしています。解答欄が小さいほうが、解答作成は困難になります。解答要素を減らしてはならないので、簡潔にまとめる表現力がより問われるからです。

### 問一

偉大な思想家の思想は読者の考えが向上するに従い異なって現れ、新たに教えられる。読書において一時に全体が明らかとなり、著者の思想を修得できるように、読者の考えを著者の思想と共通するところまで向上させるということ。

### 問二 \*解答欄6行を5行に改題

偉大な思想家の物の見方考え方と思考の型という本質を把握すれば、全集を詳細に読まなくても、著者の考えが大体予想できると思われるから。筆者はそれで満足してはおらず、本質に達していないと主観的、独断的な解釈に陥るので、人に勧めもしないが、皮相な読書法には勝ると考えている。

### 問三 \*解答欄5行を4行に改題

画期的で偉大な、大きな思想流派の創始者の著書は、読んで思想が把握できれば、その流派は順次関連して理解でき、また、創始者の思想に還れば、在来思想の行き詰まりを越えるのに必要な、他の可能性が示唆されると思われるから。

### 問四 \*解答欄4行を3行に改題

ある思想は、特定の歴史的基盤において生じ、特定の意義を持って、多くの可能な思想の中で一つに定まるので、唯一つの思想を知るとは、思想の成立への無理解を意味するから。

### 問五 \*解答欄5行を4行に改題

自分の思想が著者と共通するまで向上させ、正確に綿密に読むが、必ず著者の思想の本質を把握するよう努め、また、画期的な思想流派の創始者の著書を、著者の思想が成立した歴史的基盤とその意義をも知って読むという読書法。